中間報告書（平成 23 年度）

提出者　　平　田　　知　久

提出年月日　　2012 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文

歴史概念としての親密圏・公共圏の理論的再検討

英文

Theoretical Reconsideration of the Intimate and Public Spheres as a Historical Concept

【メンバー構成】

研究代表者

富永茂樹（京都大学 人文科学研究所・教授）

幹事

平田知久（京都大学 大学院文学研究科・研究員（グローバル COE））

メンバー

鵜飼大介（京都大学 大学院人間・環境学研究科・助教）

西川純司（京都大学 大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員（DC2））

銭廣承平（京都大学 大学院人間・環境学研究科・博士後期課程）

中森弘樹（京都大学 大学院人間・環境学研究科・日本学術振興会特別研究員（DC1））

上野大樹（京都大学 大学院人間・環境学研究科・日本学術振興会特別研究員（DC2））

溝口佑爾（京都大学 大学院人間・環境学研究科・日本学術振興会特別研究員（DC1））

【ねらいと目的】（600 字程度）

このコアプロジェクトの目的は、アジア・ヨーロッパの親密圏と公共圏を歴史概念として捉えることで、これまで様々なかたちで形成され、実際に語られてきた親密圏と公共圏の生成と変容を記述することである。

アプローチの特色としては、前年度と同様、京都大学内外の理論研究に携わる研究者とともに、タスクフォース型の小ユニット（1 名でも可）を形成し、各ユニットで親密圏と公共圏に関する概念史を追うことにより、親密圏・公共圏という広範な領域をカバーすることが挙げられる。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

1. 研究報告など

i. 理論班第 15 回定例研究会（2011 年 7 月 8 日）
　報告タイトル: 公共圏/親密圏を考えるためのメモ

報告者: 富永茂樹

ii. 第 3 回コアプロジェクト研究会（2011 年 7 月 28 日）

報告タイトル: « 公共-親密 »問題を考えるために

報告者: 富永茂樹

iii. 書評報告（2011 年 11 月 12 日）

報告タイトル: ジョン・エーレンベルク『市民社会論』

報告者: 百木漠

iv. 書評報告（2011 年 11 月 22 日）

報告タイトル: レイモンド・ゴイス『公と私の系譜学』

報告者: 金瑛

v. 書評報告（2011 年 12 月 20 日）

報告タイトル: ノルベルト・エリアス『文明化の過程』

報告者: 中島啓勝

vi. 研究報告（2011 年 12 月 21 日）

報告タイトル: 「無縁死」概念の社会学的意義―死の社会学におけるその位置づけをめぐって

報告者: 中森弘樹

vii. 書評報告（2012 年 1 月 17 日）

報告タイトル: ジョルジョ・アガンベン『王国と栄光: オイコノミアと統治の神学的系譜学のために』

報告者: 上野大樹

viii. 公共哲学のアクチュアリティと歴史概念としての公共圏 第 4 回講演会（2012 年 2 月 18 日）

報告タイトル: フランス王立科学アカデミーと統治の公共性

報告者: 隠岐さや香（広島大学 准教授）

ix. 書評報告（2012 年 2 月 29 日）

報告タイトル: Michael Warner, *The Letters of the Republic: Publication and the Public Sphere in 18c America*

報告者: 森山貴仁

2. 研究調査など

x. ヘルシンキ・パリにおける調査

調査年月日: 2011 年 9 月 14 日-23 日

調査者: 富永茂樹

調査地: Kaapeli 文化センター／Korjamo 音楽センター／タンペレ大学／Annantalo 芸術センター／Nosturi 文化工場（ヘルシンキ）、パリ市歴史図書館／社会科学高等研究院（パリ）

調査目的: 公共空間にかんする調査・資料収集、文化施設にかかわる資料の収集、公共圏・親密圏にかかわる研究情報の交換

3. 出版など

xi. グローバル COE 理論研究班編, 2012,『歴史概念としての〈公共圏〉と〈公共哲学〉――リベラル・モデルとは異なる公共性の別様の理解をめざして――』

【成果の概要】（800 字程度）

本コアプロジェクトは、アジアとヨーロッパにおいてこれまで語られ、また形成されてきた親密圏と公共圏を歴史概念としてとらえ、その生成と変容を考察することを目的とするものである。2011 年度は、以上のような研究・実践を通じて、メディア空間と親密圏・公共圏にかかわる様々な論点を提起した。

i の報告では、まず公共圏のモデルとしてしばしば理想視して語られる古代のアテナイについて、それの実態を N・ロローや M・デチエンヌをはじめとする最近の研究に依拠しながら明らかにし、また古代都市国家の観念がもはや意味を失った 18 世紀初頭に、ジャンバッチスタ・ヴィーコが修辞学を革新する過程で見たギリシァおよびローマの姿の検討を行った。次に ii の報告ではルソー、モンテスキュ、カントの著作の読解をとおして、18 世紀に発達する大都市の諸問題、またそこでの祝祭の可能性を検討することで、公共圏と親密圏を考える手がかりをさぐった。また、vi では「無縁死」という概念について、従来の死の社会学との関係や再定位化について議論がなされ、viii の報告では 17-18 世紀フランスにおける科学アカデミーの成立と国家統治の問題が分析された。

他方、研究調査として、x では、最近ヘルシンキに開設された市の地域文化センター（3 館）やカーペリ文化センター（電線工場を改装）などの文化施設を視察し、市の文化政策についてヘルシンキ文化オフィスでインタヴューを試みた。さらにパリ歴史図書館および社会科学高等研究院で、公共空間にかかわる資料の収集にあたった。

加えて今年度は、これまで理論研究班にかかわるものとして開催された講演を活字におこしたもの、および講演会をもとにした原稿、さらに公共圏概念を考える上でさらに光があてられるべき書籍に関する書評（iii、iv、v、vii、xi を含む）を集め、本プロジェクトのメンバーである上野大樹氏が、序文を付けた xi の研究論集を刊行した。

【通信欄】

（事務局記入欄）

プロジェクト	□次世代　□次世代ユニット　□男女共同参画に資する調査研究	
経費	予算額　（千円）	実績額